

# 県民意見整理台帳

## 「第3次神奈川県食育推進計画（素案）」に関する 意見募集及び県民意見の計画への反映状況

(1) 意見募集期間 平成29年12月20日（水）～平成30年1月21日（日）

(2) 意見募集の結果 意見件数 39件  
意見提出者数 5団体・個人（団体2、個人3）

(3) 意見内容の概要及び意見の反映状況

・意見内容の分類

区分	件数
ア 計画策定の趣旨に対する意見	5件
イ 食をめぐる現状に対する意見	4件
ウ 県が目指す食育の方向に対する意見	8件
エ 施策展開等に関する意見	9件
オ 参考（第2次計画の成果と課題等）に対する意見	6件
カ その他	7件
計	39件

・意見の反映状況

区分	件数
A 新たな計画案に反映しました。	9件
B 新たな計画案には反映していませんが、ご意見のあった施策等は既に取り組んでいます。	5件
C 今後の政策運営の参考とします。	7件
D 反映できません。	5件
E その他（感想、質問等）	13件
計	39件

平成30年3月

神奈川県保健福祉局保健医療部健康増進課

### 第3次神奈川県食育推進計画（素案）に関する意見及び意見に対する県の考え方

（反映区分）

- A 新たな計画案に反映しました。
- B 新たな計画案には反映していませんが、ご意見のあった施策等は既に取り組んでいます。
- C 今後の政策運営の参考とします。
- D 反映できません。
- E その他（感想、質問等）

〔注〕 文章内に記載されたページについては、計画（成案）を反映したものとなっているため、素案でお示した時点のページとは異なります。

番号	意見区分	意見の要旨	反映区分	県の考え方
1	カ	<p>食を巡る状況の認識から、「おうちでいただきますの日」を「みんなでいただきますの日」とすることについて、方向性は是であるが、友人や仲間との会食やご近所、地域コミュニティでの食事会などグループや地域で支え合う共に食事をする場づくりと併せて、一緒に食べる「共食」から、「食行動（食事を作る行動や情報の交換・形成にかかわる行動も含む）の共有」することを「仲間、学ぶ仲間、仕事する仲間、地域の人々」と共有する「共食」と視点を広げ、多様な共食を考えることが必要ではないか。</p> <p>共食はその人の食生活を豊かにするだけでなく、例えば高齢者であれば高齢者自身が地域の中で情報の発信者となり、地域社会の活性化—社会貢献の担い手ともなるきっかけをもたらす。</p>	B	<p>共食の中には、献立を考える・食事を作る・後片付けをする等の行動も、食事を共にする一連のコミュニケーションに含まれると考えています。</p> <p>「みんなでいただきますの日」の呼びかけについては、共に食事することで得られる食体験などの効果や重要性も普及してまいります。</p>

番号	意見区分	意見の要旨	反映区分	県の考え方
2	ア	<p>神奈川県が「食みらいかながわプラン 2013」を策定し、関係機関、団体と連携しながら、「食育」を県民運動として推進してきたことにより、県内すべての市町村において食育推進計画が策定され、全ての公立小・中学校において食に関する年間指導計画が策定されるなど、枠組みとして大きな進展を作り出してきたことを評価する。</p> <p>しかしながら、内容を見ると野菜摂取、食生活の質の劣化、食品ロスなど、食の大切な課題は前進が見られておらず、第3次神奈川県食育推進計画作成にあたり、課題として記述したことに賛成する。</p>	E	<p>お考えとして承ります。</p>
3	カ	<p>神奈川県は知事の意向もあり「未病」という言葉を使うが、県民にはあまり浸透しているとは言い難い。高齢者が増えている日本社会として高齢者の健康づくりが大きなテーマとなってきており、健康な状態と日常生活でサポートが必要な介護状態の中間を意味する「フレイル」が多く使われるようになっていく。フレイルに早く気づき、正しく介入（治療や予防）することが重要である。</p> <p>従って、未病のところにフレイルについても関連立てて記述すると理解が進むのではないか。</p>	C	<p>フレイル対策は、ライフステージに応じた未病対策における介護予防・軽度認知障害対策として、「かながわ健康プラン 21（第2次）」に位置づけて推進しているところです。</p> <p>フレイルと未病の関連性に食の要素も含まれますが、主に健康づくりの問題であるため、食育計画の中に記述することは困難です。ご意見を参考に、今後も県はフレイル対策を推進してまいります。</p>

番号	意見区分	意見の要旨	反映区分	県の考え方
4	イ	<p>「食塩のとりすぎは高血圧症、ひいては脳卒中や心臓病を起こしやすくすると言われています。」と記述があり、実際の食塩摂取量データを記すならば、ここに望ましい摂取量も記述すると理解が進む。(22ページに記述あり)</p> <p>厚生労働省が2014年3月に発表した「日本人の食事摂取基準(2015年版)策定検討会」の報告書によれば、18歳以上の男性は1日当たり8.0g未満、18歳以上の女性は1日当たり7.0g未満という目標量が定められている。さらに、日本高血圧学会減塩委員会は、高血圧予防のために、1日6g未満という制限を勧めている。</p>	B	<p>本計画では、食塩の1日当たりの目標値を、男女とも8g未満としており、調査結果も「食塩1日摂取量が8g未満の人の割合」を掲載していることから、厚生労働省が発表している日本人の食事摂取基準にある成人の目標量(男性8g、女性7g)を記載すると、本計画の目標値と異なるため、混乱する懸念があります。</p> <p>記載はこのままとさせていただき、望ましい摂取量は、22ページに掲載している「おいしく・楽しく・きちんと食べよう」のコラムに、参考情報として記載することをご理解いただければと考えます。</p>
5	イ	<p>4の意見と同様に、朝食の重要性について38ページに記述はあるが、朝食欠食が問題ならば何故食べて欲しいのかをここに簡潔に記しておくとう理解が進む。</p>	A	<p>「朝食を食べないと、午前中は体温が上がらないため体が目覚めず、脳のエネルギーが不足しているため集中力や記憶力の低下につながり、元気に活動できません。」を追加しました。</p>
6	イ	<p>4、5の意見と同様に、何故肥満や低体重が問題なのかをここに簡潔に記しておくとう理解が進む。</p>	A	<p>「肥満は、心筋梗塞や脳卒中などのリスクが高まり、低体重も、栄養が十分に摂れていないことで、体の冷えや様々な体の不調が起りやすくなります。」を追加しました。</p>

番号	意見区分	意見の要旨	反映区分	県の考え方
7	エ	資本系列の枠を超えて小売業が連携して中心となり「売り場」を通じた食育運動を展開しているのは、日本全国でも「神奈川・食育をすすめる会」だけである。県民にアピールするためには食育フェスタという形もいいが、「ふだんの売り場での食育」活動の推進のために、県や県立保健福祉大学との更なる連携の発展を望む。	B	お考えとして承ります。また、県民の食育推進をいろいろな場面で展開できるように、一層の連携に努めてまいります。
8	カ	「地産地消」について、神奈川県都市農業推進条例で説明をしているが、農業であれば中山間地においても地産地消が位置づけられているし、水産業においても同様の筈である。都市農業で語るのでは不十分ではないか。	A	「県では、「かながわ農業活性化指針」や「かながわ水産業活性化指針」を定め、県内全域を範囲として地産地消の推進に取り組んでいます。」に修正しました。
9	エ	県民に期待される取組に記載の、【伝える】について、「家庭での食事を通して」では現実的に不十分なので、家庭だけでなく、学校、地域など共食の場も位置づけが必要ではないか。	B	食文化や食習慣、食事マナーは、家庭だけでなく学校、団体、自治会、事業所等あらゆる場での展開を想定していますが、その一例として家庭を記載しております。
10	オ	食育推進計画の問題意識の中に食品ロスが出ているが、「食を大切に作る心を育てる」の中で、学校以外でも展開する必要があるのではないか。	B	第3次計画では、食品ロス削減に関する普及啓発は、地域、職場等といった学校以外でも展開してまいります。

番号	意見区分	意見の要旨	反映区分	県の考え方
11	オ	<p>共食について、「食を共にすること、家族や仲間などと食卓を囲んで、共に食事をとりながらコミュニケーションを図ること」では概念が狭くないか。「食行動（食事を伴う行動や情報の交換・形成にかかわる行動も含む）の共有」を「仲間、学ぶ仲間、仕事する仲間、地域の人々」と共有する「共食」に視点を広げ、多様な共食を考えることが必要ではないか。</p>	C	<p>共食の中には、献立を考える・食事を伴う・後片付けをする等の行動も、食事を共にする一連のコミュニケーションに含まれると考えています。</p> <p>「みんなでいただきますの日」の呼びかけについては、共に食事をすることで得られる食体験などの効果や重要性も普及してまいります。</p>

番号	意見区分	意見の要旨	反映区分	県の考え方
12	エ	<p>第2次計画の指標の16番「農林水産業の体験をしたことがある県民の割合」…平成28年度58.7%に対して、25ページの第3次計画の指標の13番「農林水産業の体験や伝統ある食文化を伝えていく機会や場があることに満足している県民の割合」は5.5%（平成24-28年）と低い。</p> <p>また、第2次計画の指標の17番「地元産の農産物の優先的な購入」…平成28年度64.2%に対して、25ページの第3次計画の指標の14番「地元で取れた新鮮な野菜や魚を食べられることに満足している県民の割合」は（平成24-28年）25.0%と低い。</p> <p>このことから、県民は、体験できる環境・購入できる環境にあることへの感謝の気持ちが低いことが伺える。</p> <p>そこで、第3次の県の取組としては、単に「農林漁業体験の推進」「地産地消推進のための取組支援」（50、51ページのライフステージごとのテーマと取組例）にとどまらず、県民の意識改革につながるような取組を期待したい。</p> <p>このことが、基本方針『（3）食への理解を深め「神奈川の食」に親しむ』の中の「食を取り巻く環境への配慮」（特に自然環境）につながると思う。</p>	C	<p>お考えとして承ります。引き続き地産地消や生産者との交流を進め、食や農林水産業への理解促進に努めてまいります。</p>

番号	意見区分	意見の要旨	反映区分	県の考え方
13	ウ	<p>指標「農林水産業の体験や伝統ある食文化を伝えていく機会や場があることに満足している県民の割合」の意味について、前半は体験する側、後半は伝える側となっております、わかりづらい。</p> <p>伝統ある食文化を伝えていくのは「ライフステージごとのテーマと取組例」によると壮年期と高齢期。「農林水産業を体験したり伝統ある食文化に触れる機会や場があることに満足している」とすれば他の世代も回答しやすいのではないかと。</p>	C	<p>ご意見を参考に、指標の修正を検討します。</p>
14	カ	<p>「食育」の説明として、国での取組や県としての食育推進の取組が記載されていますが、これらも本来の「食育」が意味する内容なのか。</p>	E	<p>「食育」の意味や説明だけでなく、併せて国や県の取組等も記載しております。</p>
15	ア	<p>4ページの計画策定の趣旨の9～11行目「高齢者の食生活の…食をめぐる課題への対応が引き続き必要な状況」の記載について、食をめぐる現状から、高齢者については単身世帯の増加による孤食、やせの増加は問題だと思うが、H15年の調査対象となった人の10年後の状況であるH25～27年を比較すると食塩摂取量は減少、肥満は結果だけを見れば減少、朝食欠食も大きな変化が無い様に見える。このような内容から、第2次までのどのような対応と結果を受けて「引き続きの対応が必要」としているのか。</p>	E	<p>第2次計画の目標達成のための指標を記載しておりますが、目標達成できたものは20指標中4指標です。</p> <p>改善されているものもありますが、多くの指標が目標には達しておらず、引き続き対応が必要と考えております。</p>



番号	意見区分	意見の要旨	反映区分	県の考え方
16	ア	<p>16 ページ(2)共食頻度の4行目「朝食については若干、改善が見られますが、「孤食」、「個食」の対策が…」に記載の内容で、朝食の改善について、ほとんど毎日食べる、週に4～5日食べるが、H27とH28で43.7%から46.5%に変化しているのは、改善と言えるほどの変化なのか。</p> <p>また、単身世帯が増加しているため「孤食」の問題は推測できるが、「個食」であることはどこから分かるのか。</p>	E	<p>新たに公表された平成29年度のデータを追加し、記載内容を修正しました。</p> <p>ご指摘のとおり、記載した表は一人で食事をする「孤食」に関連するデータから作成しており、家族と一緒に食卓に座っていてもそれぞれが好きな料理を食べる「個食」のデータとはなっておりません。</p> <p>「孤食」と「個食」は、栄養の偏りなど同様の課題があると考えたため、並列して記述をしております。</p>
17	カ	<p>食事バランスガイドの説明や使用方法が記載されていないため、どのように活用したらよいか分からない。また、コマの絵の下に記載されている内容は食事バランスガイドの説明に必要なのか。</p>	A	<p>コラムの趣旨は、食事をとるうえで気をつけていただきたいポイント3つ(バランスのよい食事、野菜の摂取量、塩分摂取量)が重要であるとの考えから記載しております。</p> <p>食事バランスガイドの使用方法等については、農林水産省、厚生労働省のホームページでご覧いただける旨を追記しました。</p>
18	ウ	<p>「食育」は、健康づくり以外にも目指すことがあると思うが、「健康づくり」がメインの基本理念は食育の推進からすると範囲が狭い印象である。食育は食への理解や親しみ、次世代への伝承など他にもいろいろあるが、神奈川県は食育推進は「健康づくり」ということでよいのか。</p>	E	<p>食育の視点や取組は多岐に渡りますが、県としての基本理念は、未病を改善するための重要な柱である「食」について、健全な食生活の実践により誰もが元気に笑顔で長生きできる神奈川を目指すこととしました。</p>

番号	意見区分	意見の要旨	反映区分	県の考え方
19	ウ	<p>「健康な「体」をつくる」の指標が多いが、食育の健康づくり以外の成果をどのように評価するのか。</p> <p>指標⑨、⑪、⑬、⑭、⑮、⑯はどのようにとらえるかによって、基本指針への振り分け方が変わるように感じる。例えば指標⑨は、良い栄養状態の維持ととらえれば「健康な「体」をつくる」、共食で会話をしながら食事を食べて心を育むととらえれば「豊かな「心」を育む」になるというように。「健康な「体」をつくる」取組と「豊かな「心」を育む」取組を進めることが「食への理解を深め「神奈川の食」に親しむ」ことにつながると感じるため、基本指針のつながりや指標の分け方が、わかりやすく整理されると良いと思う。</p>	D	<p>基本理念を県民の皆さんがより理解しやすいよう、3つに整理することとしました。</p> <p>また、指標は、今後県が取組む施策とその進捗を測るために設定し、区分されております。</p> <p>その中で、「健康な体をつくる」に位置づけられる取組が多く、当該指標が他と比較して多くなっていることは、神奈川県が目指す方向性からもやむを得ないことと考えます。</p>
20	カ	<p>和食＝日本型食生活なのだろうか。意味することが違うと思う。</p>	A	<p>ご意見を踏まえ、コラムの記載内容を修正しました。</p>
21	カ	<p>糖質の働きより朝食の効果が記載されている方が食べようと思うのではないか。</p>	A	<p>ご意見を踏まえ、12ページの朝食欠食割合データの箇所にも、朝食の必要性、効果を追加しました。</p>
22	エ	<p>46ページの「県民、団体、事業者等に期待される取組」における「県民は…」の部分で、【参加する】の3つの取組全てが「理解を深める」取組となっているが、【知る】取組ではないか。</p>	D	<p>【参加する】の取組は、農林水産業体験や製造工場見学、あるいは食に関する講習会などに参加し、理解を深めていただくことを想定しており【知る】取組とは区分していません。</p>

番号	意見区分	意見の要旨	反映区分	県の考え方
23	エ	<p>同じく【実践する】の部分で、</p> <p>(1) 1つめの「規則正しい毎日」とは何を言いたいのか。</p> <p>(2) 4つめは、食育での食品ロスの取組は、環境への配慮だけでなく食べ物や生産者への感謝の気持ちを含めたものではないのか。</p>	A	<p>(1) 「規則正しい毎日」の記載を改め「毎日、規則正しい生活をおくり」に修正しました。</p> <p>(2) 「食べ残しを避け、材料を無駄にしないよう計画的な買い物や食材を使い切ることを心がけたり、生ゴミを堆肥化したりするなど、日ごろから食に対する感謝と環境に配慮した生活をおくる。」に修正しました。</p>
24	オ	<p>第2次計画の成果と課題の(1)重点目標の成果と課題に記載されている最後のコメントの「3つの重点目標はいずれも・・・下回っています。」の記載について、大きく下回っているのは朝食欠食だけで、他の指標の現状値は大きな変動がないか、もしくは高くなっているものがあるように思う。</p> <p>目標を達成した・しないの基準はどのようなものなのか。</p>	E	<p>設定した目標値と最新の現状値を比較し、判断しています。</p> <p>具体的には、進捗率が100%以上になっていれば、達成したと判断しております。</p> <p>なお、新たに公表された29年度のデータを追加し、記載内容を修正しました。</p>
25	オ	<p>目標4「健全な食生活をおくるための家庭環境をつくる」の課題に記載されている内容について、マナーの現状値は策定時と比較して大きな変化はないように感じる。指標ウの20～29歳男女と、30～39歳男性の朝食欠食の割合の方が問題ではないのか。</p>	A	<p>ご意見を踏まえ、「朝食を欠食する20歳代から30歳代の若い世代が増加しています。」を追加しました。</p>

番号	意見区分	意見の要旨	反映区分	県の考え方
26	オ	目標6「食文化の伝承と環境に調和した生産と消費を心がける」の課題に記載されている内容について、食品ロスの取組は、環境への負担軽減だけがメインではなく、食に対する感謝の気持ちを深める等と同じように食の循環の中のひとつであると考え、環境への負担軽減のみでよいのか。	A	ご意見を踏まえ、「また、日本では、毎年、莫大な量のまだ食べられる食品が廃棄されています。食への感謝の気持ちを深めるとともに、その廃棄物処理に伴う環境への負荷軽減のためにも、県民一人ひとりの食品ロス削減に向けた取組が求められています。」に修正しました。
27	ア	計画策定の趣旨について、2次計画により神奈川県が食育が進展したという評価と、次期計画でさらに推進する趣旨を、活動してきた事業者として支持する。	E	お考えとして承ります。
28	ア	計画の位置づけについて、引き続き、県民に食を提供する事業者としての特性を食育に活かしていきたいと考える。	E	お考えとして承ります。
29	イ	かながわの食をめぐる現状について、神奈川・食育をすすめる会でもデータから学び、現状の評価を共有したいと考える。	E	お考えとして承ります。
30	ウ	神奈川県が目指す食育の方向について、県民の実践に向け、よりわかりやすくするとともに、策定後の伝え方を想定し、楽しく、親しみやすい文言を選ぶ工夫などもあると良いかと考える。	C	お考えとして承ります。 「食」に関わる様々な問題を、自分の問題として捉えていただけるよう、普及啓発する際には、わかりやすく親しみやすい言葉を使うように心がけてまいります。

番号	意見区分	意見の要旨	反映区分	県の考え方
31	ウ	<p>健康な体をつくることはもちろん、豊かな心を育むことを食育の方針に掲げている点が、神奈川・食育をすすめる会の既存の活動と一致し、連携しやすい方針と考える。</p> <p>当会でも理解を深めて、健康な食生活に向けた情報発信、食を楽しむ、心豊かにする情報発信を工夫したいと考える。</p>	E	<p>お考えとして承ります。</p> <p>県民の健全な食生活の実現に向けて、引き続き貴会との連携をお願いいたします。</p>
32	エ	<p>食育推進の施策展開について</p> <p>(1) 神奈川県は食育推進の担い手の1つとして、今後も連携をさせていただき所存である。食を楽しむ、心豊かにする取組なども施策として記載があるとより進めやすいと考える。</p>	C	<p>食を楽しむ、心豊かにする取組については、39 ページの、教育現場における、かながわ産品学校給食デーでの児童の県内産食材への理解促進や、工場見学等を通じた食を支える生産活動への理解促進の取組、41 ページの、ふるさとの生活技術指導士による農家の伝統的な生活技術を学び交流を深める取組、あるいは42 ページの、かながわトントンまつりや、花と緑のふれあいセンターにおける農業講座等での、楽しみながら食材に触れて親しむ機会を提供する取組があります。</p>
33	エ	<p>食育推進の施策展開について</p> <p>(2) バランスアップメニューの活用について、協議し、協力していきたいと考える。</p>	E	<p>お考えとして承ります。</p>
34	エ	<p>食育推進の施策展開について</p> <p>(3) 事業者として、食の安全・安心について、神奈川・食育をすすめる会各会員の立場で学び、取り組みたいと考える。</p>	E	<p>お考えとして承ります。</p>

番号	意見区分	意見の要旨	反映区分	県の考え方
35	エ	食育推進の施策展開について (4) 引き続き、売場からの食育発信を工夫して行くとともに、神奈川県・食育をすすめる会の会員各社の方々自身の食育の実践に繋がるよう活動したいと考える。	E	お考えとして承ります。
36	オ	第3次計画を策定するにあたっては、第2次計画の評価や達成度などの分析があった上で、9ページ「神奈川の食をめぐる現状」と合わせて課題を抽出し、総括されたものとするが、素案の中ではそれが明確でなく、「第2次計画の成果と課題」は、56ページ〈参考〉の中の、資料のような形ではなく、きちんと本文に入れるべきと考える。	D	今後、県民一人ひとりが「食」についての理解を深め、自ら健全な食生活を実践することで、誰もが元気に笑顔で長生きできる神奈川を目指すこととしており、第2次計画の成果と課題を踏まえた計画になっております。 なお、野菜摂取量の不足や若い世代の朝食欠食率の増加などの課題については、第3次計画においても引き続き取り組んでまいります。
37	ウ	「基本理念」としてスローガンに『楽しく食べて健康づくり～つくる・育む・親しむ・食のみらい～』とあり、わかりやすく、イメージしやすいと思うが、これが基本指針では3つだけになり、「つくる・育む・親しむ」を支える環境づくりの部分が欠落しているのはおかしい。 行政や関係団体等で支える仕組みづくりの指針が必要であり、第2次計画にはあったし、それが達成されたのであれば、次なる仕組みづくりの課題があるはずであるし、例えば増大する中食・外食への指針作りなど課題としてあると考える。	C	本計画に掲げた、食育の課題は多岐に渡ると考えております。 行政だけの取組みでは困難であり、これまでも民間を含めた食育活動団体と連携して課題に取り組んでまいりました。第2次計画に引き続き、関係団体等と連携して、食育を推進してまいります。

番号	意見区分	意見の要旨	反映区分	県の考え方
38	ウ	<p>「指標」は、あまりにも3つの方針の量的なバランスが取れていないし、指標のグループ分けが違うものがあると思う。</p> <p>「つくる」の⑥ボランティアの数は、環境づくりの項目としたほうがふさわしいし、⑨共食の回数は、「育む」に入れるほうが妥当である。共食は「つくる」に入る要素もあるが、結果の一部であり保育や学校の現場では、コミュニケーションや他者への感謝の気持ちなどを育むものとして考えられている。「育む」の⑩給食の地場産物の使用割合は「親しむ」に入れるほうが妥当と思う。学校現場では地元の農家に地場産野菜の様子を見学したり、話を聞いたりして食育している。「親しむ」の⑮食品ロスと⑯食品の安全性は、3つのどの項目に入れても違和感がある。</p> <p>マッチングの困難性は指針の不備を表していると思う。例えば「食のみらいを支える」という環境づくりの柱を作り、⑥⑮⑯を指標に入れるのはどうか。</p>	D	<p>基本理念を、県民の皆さんがより理解しやすいよう、3つに整理することとしました。</p> <p>また、指標は、今後県が取り組む施策とその進捗を測るために設定し、区分されております。その中で、「健康な体をつくる」に位置づけられる取組が多く、当該指標が他と比較して多くなっていることは、神奈川県が目指す方向性からもやむを得ないことと考えます。</p>
39	ウ	<p>指標の⑯「食品の安全性に関する知識があると思う県民の割合」については、国のものと同じなのだが、食品の安全性に関する知識の幅と量が多すぎて、回答に困る項目であり、不正確な指標だと思う。神奈川県独自の独自性として、食品表示のみについて指標とすることを提案したい。</p>	D	<p>食の安全性に関する情報は多岐に渡りますが、時宜に応じ、正しく判断するためには県民の皆さんに幅広い知識に関心を持っていただきたいと考えております。</p>